

モルドバGallery、3年ぶりに開催！

東欧の小国モルドバの魅力を伝える「モルドバGallery 写真・水墨画展」を、7月5日から27日まで、ひょうご国際プラザ交流ギャラリーで3年ぶりに開催。写真家・みやこうせいさんや、内閣総理大臣賞を受賞した水墨画家・遊霞さんの作品を含む約50点を通して、モルドバの自然と伝承文化、生活風景を紹介しました。28年間モルドバを支援されてきた、主催者で日本モルドバ友好協会理事長の沓澤正明さんは、「貧しい国ですが、それを感じさせない子どもたちの伸び伸びとした表情や、美しい景色をぜひ感じてほしい」と話しました。ウクライナの隣国ということで決して良い形ではありませんが、日本でもモルドバへの関心が高まっています。約150人の来場者の中には仕事で3度訪問したという人も。「人がとても温かい国。またモルドバに行きたくなります」と思いをはせました。



今、平和を想い、絵本を読んでもみませんか

ひょうご国際プラザ所蔵の書籍から「平和」がテーマの絵本を紹介します。



「ベビーレボリューション」
(浅井健一文・奈良美智絵 / クレヨンハウス)
世界中の赤ちゃんがいっせいに
はいはいをして一体どこへ？
奈良美智さんの力強い絵も魅力の一冊



「子どもの本で平和をつくる
ーイエラ・レップマンの目ざしたこと」
(キャシー・スティンソン文・マリ・ラフランス絵・さくまゆみこ訳 / 小学館)
本で子どもたちの世界を広げ、
平和を願って行動した人のお話



「せかいでいちばんつよい国」
(デビッド・マッキー作・なかがわちひろ訳 / 光村教育図書)
つよってなんだろう？
大人も子どもも改めて考えてしまう一冊

ひょうご国際プラザでは、この他にも
英語、中国語、韓国語など、さまざまな言語の絵本を
取りそろえています。気軽にお立ち寄りください。



ひょうご国際プラザ

県内に在住・在学・在勤の人は
利用者カードを作ることができます。
貸し出しは一人5冊まで。



開館時間等の
詳細はこちら▲

2022
ひょうご国際プラザ
図書展示カレンダー
(予定)

10月	11・12月	1月	2月	3月
防災特集	クリスマス特集	兵庫県を知る	ネパール特集	いろんな幸福

イベントに参加したい！ もっと知りたい！
国際交流・協力や多文化共生に関する最新イベント等の情報を配信中！

◎ひょうご国際交流メールマガジン
検索・登録はココから(登録無料)
<https://www.hyogo-ip.or.jp/>

HIA 検索



兵庫県国際交流協会(HIA)が発信するひょうごの国際交流情報紙

HYOGO
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
カムヒア

2022.10
vol.104

誰もが安心して 笑顔で暮らすために



多可町で行われた外国人支援防災訓練の参加者とサポートスタッフ

[発行・問い合わせ]
(公財)兵庫県国際交流協会

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 国際健康開発センター2F TEL 078-230-3260 URL <https://www.hyogo-ip.or.jp/>
Hyogo International Association 2F, IHD Center, 1-5-1 Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe 651-0073



HIAは防災活動を推進しています!

近年、県内において在住外国人が増加しています。こうした中、災害時の避難所での外国人次対応が課題の一つとなっています。そこでHIAでは、災害時の外国人住民に対する対応について日頃から考え、災害への備えを進める市町や市町国際交流団体の取り組みに協力しています。



多可町防災訓練が実施されました

2022年7月3日、多可町において外国人支援防災訓練が実施され、HIAもこの訓練に協力しました。県と町が連携して開催する災害時の外国人支援に係る訓練は県内初。ベトナム、中国、フィリピン、ミャンマー、インドネシアの5カ国・約30人が参加しました。

第1部では多可町職員等による防災講座が行われ、第2部では、実際に災害が起こった場合を想定した避難行動と避難所での生活を参加者が体験。日本人も外国人も共に助け合い、一緒に災害を乗り越えるために、平時から準備をしておくことの大切さを学ぶことができました。



1 防災講座で大雨、台風、地震について学び、多可町内のハザードマップを確認

2 最大震度6強の地震を想定したシェイクアウト訓練を実施



3 感染症対策のため、避難所へ入る前に体温測定と健康チェック



外国人参加者に聞きました

Q 多言語指差しボードを使ってみてどうでしたか?

イラストが描いてあるので、言葉でうまく伝えられないときに役立ちます。災害時に自分の国の言葉で情報があると安心です。日本の皆さんがいろいろと考えてくれて、とてもありがたいです。

Q 防災訓練の感想を教えてください。

「電気がなくなったら怖い」「家族と連絡は取れるの?」など、地震が起きたときのことを具体的にイメージして考えることができました。

Q 日本の皆さんにお伝えしたいことはありますか?

避難所では、「トイレに行きたいですか?」など、まずは「はい、いいえ」で答えられる簡単な日本語で声をかけてもらえるとうれしいです。日本語が苦手な外国人にとって自分から声をかけるのは勇気がいるので、声をかけてもらえたら、困りごともしやすくなると思います。



4 受付で多言語避難者登録カードを記入し、グループに分かれて避難スペースへ移動



災害時多言語表示シート・災害時用ピクトグラムで避難所内でのルールを共有



くつを脱いでください

5

多言語指差しボードを使って避難所のスタッフに困りごとや要望を伝える練習



災害時外国人支援助成事業

災害時に支援を必要とする外国人県民や外国人支援者への防災・減災のノウハウに関する普及啓発活動をサポートするため、県内の国際交流関連団体が行政と連携して実施する各種事業に対し、助成金を交付しています。2019年度に開始して以来、防災訓練や災害時外国人サポーターを養成する研修会、避難所に設置する多言語支援ツールの作成など、計5事業を支援してきました。

事例紹介

2021年11月20日「外国人と防災について考える交流会」

日本語教室や慈善コンサートの開催などを主な活動とする伊丹ユネスコ協会が、伊丹市と連携し、防災をテーマとした外国人と日本人の交流会を開催しました。参加者37人は、講師のイタミライフキーパー代表・宮崎涼二さんから、日本の災害が起こる仕組みや、災害発生時の情報の調べ方、日頃から準備しておきたい防災グッズについて教わった後、グループに分かれて話し合いながら理解を深めました。中国やベトナム出身の参加者の中には、地震という概念を初めて知った人もいて、災害に対する心構えを学ぶ貴重な機会となりました。



洪水ハザードマップで近隣の避難所を探しました

災害時に役立つツールを紹介します!

1 多言語指差しボード

日本語によるコミュニケーションが困難な人のため、避難所運営者と被災外国人の双方が指差しで最低限の意思疎通が図れるようになっています。

◀詳しくは当協会ホームページへ



2 多言語避難者登録カード

持病の有無や、食事制限などの配慮すべきことを記入してもらうことで、多言語指差しボードよりも詳しく、体の状態や、食べられない物などを避難所運営者に伝えることができます。



3 災害時多言語表示シート

避難所内の施設や設備の説明を多言語で表示しています。避難所運営者は多言語表示をする際にどの言語を選定すべきか、地域の特性を事前に把握しておきましょう。



2・3の詳細は自治体国際化協会ホームページへ▶

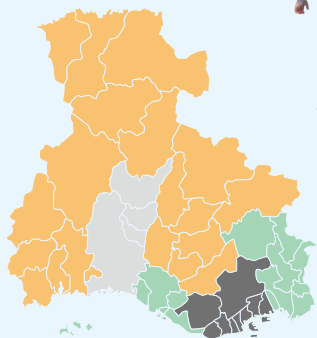
多文化共生の窓

地域における日本語教育の総合的な体制づくりの一環として市町に委託している事業の中から、高砂市国際交流協会のイベントを紹介。合わせて、関西ブラジル人コミュニティとの協働事業「ブラジル移民祭」も紹介します。



外国人県民の日本語習得とより一層の社会参加を目指して

HIAでは2019年度から、文化庁の補助制度を活用して地域における日本語教育の総合的な体制づくりに取り組んでいます。県内7地域においてモデル事業を展開しており、順次各地域の1市町に事業を委託し、日本語教師による日本語講座や住民参加型イベント・研修を行っています。2022年度は3地域で実施中。今回は東播磨地域の事業委託先、高砂市国際交流協会の地域住民参加型イベントを紹介します。



2022年度実施中の地域
実施済みの地域
神戸市は独自に事業実施

高砂市国際交流協会 「エントランス改修大作戦」 ～みんなで作る、多文化共生の拠点～

「これみんなでやったら絶対楽しいやん!」。協会事務局の片岡さんと大和屋さんが、フィリピン出身の利用者さんと、劣化で茶色くなった事務所の壁をペンキで塗りながらひらめいたのがこのプロジェクトの始まり。2021年11月、協会の事務局が年季の入った元水道庁舎へ移転し、利用者から「暗くて入りにくくなった」との声が挙がっていました。日本語教室のボランティアと受講者、近隣中高の美術部員たちに、ファシリテーターとして建築士が加わり、事務所にどんな場所にしたいか話し合いを重ね、出てきたキーワードが“多文化共生・安心感・言葉を超える”。「これを表現するにはカラフルにしたいな」など意見を出し合い、エントランスの壁に取り付ける



「今日からあなたはゴンゴン塗装の社員です!」とメダルを手渡すカインさん



案内パネルのデザインに反映させました。

2022年の大型連休中の5日間にパキスタン、ベトナムなど計6カ国の延べ118人が集まり、制作。ペンキまみれの子どもたちや初めての作業に夢中で取り組む大人たち。その中には、塗装工として働くベトナム出身のカインさんにローラーの使い方を教わり、最後には習得した証しとして手作りのメダルをもらう日本の子どもたちなど、交流を深め合う人々の姿がありました。きれいになっていく事務所を見て達成感を共有し合い、完成した案内パネルに喜びもひとしお。暗い事務所が、訪れる人々を迎え入れる温かい居場所へと生まれ変わりました。



インタビューに協力いただいた(左から)手崎さん、カリムさん、八木さん、松岡さん、大和屋さん、片岡さん



「ブラジル移民祭」を開催 ～移住者たちに思いをはせて～

関西ブラジル人コミュニティ(CBK)とHIAは4月30日、「ブラジル移民祭」を協働して開催。CBKのポルトガル語母語教室に通うブラジル人の子どもと、その家族や日本人支援者など約50人が参加しました。

かつて移民収容所だった神戸市立海外移住と文化の交流センターを出発し、鯉川筋を下って神戸港までウォーキング。ブラジルへ出航する船に乗る移民たちが実際に歩いた道をたどり、彼らの出発の日を追体験しました。

メリケンパークにある神戸港移民船乗船記念碑の前で記念撮影をした後は、港巡り。45分間のクルーズでは、明石海峡大橋や淡路島を眺めながら、はるか遠くブラジルまで船で渡った移住者たちに思いをはせました。



ひょうご国際交流団体連絡協議会 活動紹介

3年ぶりに総会が対面形式で開催されました

5月25日、3年ぶりの対面形式で2022年度ひょうご国際交流団体連絡協議会総会が開催されました。水口典久新会長(4月にHIA理事長に就任)のあいさつで始まり、審議の後、本県の草の根の国際交流活動に尽力された個人・団体に贈られる「草の根国際功労賞」受賞者の表彰式が行われました。今年は全部で8個人、2団体が受賞されました。※1人は都合により表彰式を欠席

杉山 直子 様
村井 厚子 様
(芦屋市国際交流協会推薦)

25年にわたり、市広報誌を毎月英訳し、市内在住外国人へ無償で発送するボランティア活動をしてられました。

西浦 道雄 様
(三田市国際交流協会推薦)

三田市国際交流協会会長として、三田市の国際交流に尽力されたほか、農業を通じて、姉妹都市との交流に貢献してられました。

篠倉 玲子 様・平山 和美 様
(加古川市国際交流協会推薦)

ボランティア講師として、15年以上、外国人への日本語個人指導に携わってられました。

花谷 恵美子 様
(たつの市国際交流協会推薦)

硬筆ボランティアとして、外国籍や外国にルーツのある子どもたちを指導してられました。

多文化センター
まんまるあかし
(代表者 久保 美和 様)
(兵庫県国際交流協会推薦)

外国籍住民への日本語指導のほか、外国にルーツを持つ児童生徒に対し、日本語だけでなく、学習支援・進路指導もしてられました。

太子日本語学習支援
ボランティアグループ
(代表者 松本 一巳 様)
(太子町推薦)

太子町のみならず、近隣の市に在住の外国人への日本語学習支援もされてきました。



ナーフ 兼寛 様
(三木市国際交流協会推薦)

協会の支援やアラビア語通訳・翻訳ボランティアとして活動してられました。

谷口 勝昭 様
(佐用町国際交流協会推薦)

日本語教室開設に尽力されたほか、民間の佐用日本語学校の校長として活躍されました。

※西浦道雄様は2022年6月に永眠されました。ご冥福をお祈りいたします

Pick Up! 訪日教育旅行

オンラインで紡ぐ国際交流

Web交流を実施する学校が年々増えています。2020年度は台湾との交流が12件でしたが、2021年度は台湾に加え、韓国やオーストラリア、ニュージーランドといった国・地域との交流も実施。合計で51件、1,265人が交流しました。本年度はさらにアメリカやマレーシアへと交流の輪が広がります。複数の国・地域と交流することで異文化理解を進めたり、継続的に交流を重ねて友好を深めたりと、Web交流を通じて多くの学びを得ています。

また、台湾の交流校からは「来年6月には兵庫県を訪れて対面の交流をしたい」「台湾に来られる時にはいつでも訪ねてきてくださいね」など、うれしいお話も頂いています。

コロナ禍においての対応は長丁場になりそうですが、対面で笑顔の共有ができる日を楽しみに、これからも友好の糸を紡いでいきます。



NZの学校とのMOUオンライン調印式。両校の生徒が国際理解を深められるよう、友好的な協力関係を結びました



韓国の学校との交流。個別セッションに入る前に、オリエンテーションでプログラムの内容を全員で確認します



台湾の学校とマイブームについて、プロフィールシートを共有しながら楽しく交流しました



折り紙の折り方を英語でレクチャーしました。出来上がった時の喜びも共有します



交流後はパートナーと話した内容や新たに気付いたことをワークシートにまとめて振り返りをします

オンラインセミナー

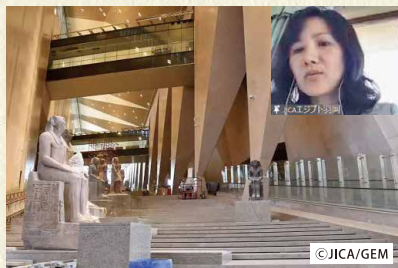
「行こう！大エジプト博物館のウラ側へ！」を開催

独立行政法人国際協力機構（JICA）など5団体と共催で、1月20日にエジプトをテーマとした国際協力入門セミナーを開催。324人の参加がありました。

第1部では、実際にエジプトと中継でつなぎ、住んでみたからこそ分かる現地のお話やギーザの三大ピラミッドの眺望に加え、新たに開館が待たれる「大エジプト博物館」の裏側を特別に許可を得て紹介。視聴者をリアルタイムに現地へと誘い、特別な体験を提供しました。

第2部では、JICAによる同博物館への技術支援プロジェクトの説明のほか、実際に携わった複数の専門家が、エジプトでの遺物の保存修復活動や政治的・宗教的な理由による破壊の現状など、世界の貴重な遺産が直面している問題についても紹介しました。

文化的な技術支援は国同士のより良い関係づくりにつながることで、さらに日本にとっては海外の貴重な文化財に触れる機会が得られるなど、双方にとって非常に有益であることを学びました。



大エジプト博物館内の様子を「ぎりぎりまでお見せします！」



ピラミッドが見える屋上から生中継



エジプトをテーマにした国際協力入門セミナー、イタリアの家庭料理「パスタフレッタ」を学んだ食文化交流教室、さらに新しい国際交流員のコ・ウンビョルさんを紹介します。

「パスタフレッタ」の クッキング動画公開中！

姫路市東部の田園地帯、山田町でご主人とイタリア料理店を営むフィレンツェ出身の小川クラウドピアさんを講師に迎え、暑い夏にぴったり
の定番家庭料理「パスタフレッタ（冷製パスタ）」の作り方を教えていただきました。「本場の味を届けたい」と話すクラウドピアさんは、ご主人とイタリアから駆け付けたお父様と一緒に、自家栽培米を使った生パスタを試行錯誤の末に開発するなど、パスタに込める愛情は人一倍。今回は、地元産の小麦を使った「加古川パスタ」から、貝の形のコンキリエという生ショートパスタをチョイスしました。

パスタフレッタのクッキング動画と、イタリアの食文化やクラウドピアさんが日本に来たきっかけなど、楽しいトークが満載のインタビュー記事をHIAホームページで公開しています。ぜひご覧ください。



イタリアのマンマのレシピ、ぜひ試してみてください

ボナベディート
Buon appetito!
(召し上がれ)

小川クラウドピアさん

インタビュー＆
クッキング動画は
こちら▶



Welcome our new CIR! 新しい国際交流員が着任しました



コ・ウンビョルさん

ヨロブン ザル プタケヨ
여러분 잘 부탁드립니다!
(皆さん、よろしくお願いします)

アンニョンハセヨ!

2022年4月から兵庫県の国際交流員として勤務しているコ・ウンビョルと申します。大学3年生の時に大阪で1年間の交換留学をしていたため、関西で暮らすのは2回目です。出身地である韓国の慶尚南道

は、2012年から県と「友好交流に関する合意書」を締結しており、街の雰囲気や言葉のイントネーションが関西と似ています。

国際交流員として韓国と日本の魅力を両国に伝える活動の傍ら、毎週水曜日は県職員のみなさんと韓国語の勉強をしています。お互いに助け合いながら言語を学び合うことができるこの仕事が好きです。韓国語は日本語と語順が同じで勉強しやすいので、興味のある人はぜひチャレンジしてみてください！



慶尚南道の夏の食べ物「콩국수（豆乳麺）」

海外事務所だより

香港経済交流事務所



テック系スタートアップが集積する香港サイエンスパーク



香港最大級のイベント（来場者数87万人）である香港ブックフェアの日本館で観光PR（2022年7月）

Connecting Hyogo, Asia, and beyond through Hong Kong!!

香港で発展中のスタートアップ・エコシステムをテーマとして、7月5日にウェビナーを開催しました。参加者からの「香港に企業が進出を検討する場合、一番の訴求ポイントは何なのか」とのご質問に、「あくまでも私見ですが、日本企業にとってアウェイ感がないこと」とお答えしたところです。最近では、訪日リピーターというサポーターからの高い支持を得て、企業が力を存分に発揮し、事業展開を加速する例も見受けられます。

目をASEANに転じると、また違ったサポーターが見えてきます。例えば、元日本留学生。東南アジアを重点地域とする国費外国人留学生招致制度は1954年に始まり、その後は私費留学生も増えています。1977年には、ASEAN各国の元日本留学生がASCOJA（アセアン元日本留学生評議会）を設立。2018年にカンボジアで開催されたASCOJAの年次会に出席した際、ASEAN各国で政府や企業の要職にある多くの元日本留学生から、「第二の故郷のプレゼンスが高まるよう日本企業の活躍を応援したい」と激励されたことが今でも思い出されます。

香港を拠点にアジアを活動エリアとする当事務所では、現地の日本サポーターによるネットワークを生かし、経済交流や観光交流等に取り組めます。

（香港経済交流事務所 所長 山谷 公男）

2022年4月、所長に
就任した山谷 公男です

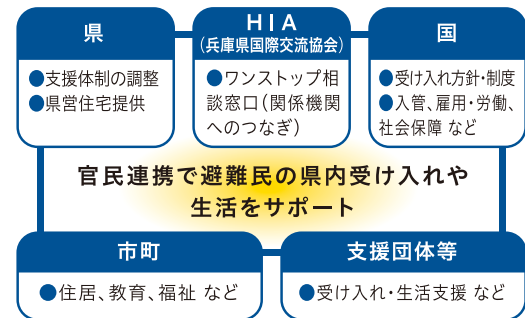
事務所スタッフと。今年も3人（中央）の夏季インターン大学生を迎えました



HIAのウクライナ避難民支援

兵庫県では、ウクライナから避難して来られる方々を支援する「ひょうごウクライナ支援プロジェクト」を実施しています。HIAがワンストップ機能を担いながら、支援者、市町、支援団体等と連携して取り組んでいます。

ウクライナ避難民等



① ウクライナ避難民等相談窓口

外国人県民インフォメーションセンターに相談窓口を設置しています。

② ひょうごウクライナ避難民生活支援金等

- ひょうごウクライナ避難民生活支援金の支給
- 支援コーディネーターの設置

※県では、ふるさとひょうご寄附金「ウクライナ緊急支援プロジェクト」を受け付けています。ぜひ、ご協力をお願いします。

ご協力はこちらのサイトから



ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税

③ 公民連携プラットフォーム ひょうごウクライナ避難民 支援サイト

県内のウクライナ避難民が安全・安心に過ごすことができるよう、日常生活や就労に関し、県、市町、企業等が支援の輪を広げる特設サイトを開設し、公民連携の支援体制を構築しています。



支援サイトは
こちら▲



支援サイト

④ 日本語教育

日本語学習支援者対象の研修会や、オンラインによる日本語講座を実施しています。